

檜の木だより

2021年10/1
第104号

発行：檜の木福祉会（法人本部）
かしの木の会
一宮市富田字砂原 2147
Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200
檜の木福祉会 ホームページ
[http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)

ひとりひとりひかる

きぼう



みんなで盆踊り



何ができるかな？



モグウたたき



アヒル救い？



今から登山に行ってきます！



風船取れたよ



焼きそば美味しそう！

今年の盆踊りも昨年に引き続き、各事業所で夏祭りなどの形をとって開催しました。模擬店や盆踊り、直接季節を感じる「登山」など、皆さん楽しく「夏」を感じることができました。



人力発電かき氷作り！



綿アメ美味しいよ

法人コーナー①

榎の木作業所 「納涼祭」

8/7 (土)



昨年度に続き、今年度も新型コロナの影響で恒例となっている“榎の木盆踊り大会”は中止となってしまいました。利用者さんには、代わりに楽しめる行事として日中に納涼祭を企画しました。また、納涼祭を行うにあたって去年同様ではつまらないだろうと思い職員で話し合い、少し内容を変えて行いました。

今回は、綿菓子、焼きとうもろこし、さかなつり、ヨーヨー釣り、盆踊り、スタンプラリーを行いました。綿菓子では、1人1本を用意しましたが、もう1本貰おうと再度並ぶ人や、頬張って食べる人、みんなおいしそうに食べていました。焼きとうもろこしでは、渡した際にすぐその場で食べてしまう人や、ゆっくり座って食べる人など様々でした。また、歯にトウモロコシが挟ま



ったと報告に来て一生懸命取ろうとしている利用者さんなどがいました。盆踊りも皆さんに盆踊りの曲を流し楽しんでもらいました。建物全館で盆踊りの曲を放送し、作業室の一室を空けて踊れる場所を作りました。利用者さんは、汗だくになるまで踊る方や、職員が踊るお手本のように上手に踊っている方などいつもと違う皆さんの姿が見られました。踊りを踊らなくても盆踊りの曲を聞くと楽しい気分になりますね。スタンプラリーでは上記の各場所にスタンプを置き、スタンプがすべて揃ったらお菓子とお面（希望者のみ）と交換しました。また、お菓子を交換すると、その場ですぐ開けて食べる利用者さんも居れば、持って帰って食べるという利用者さんも居ました。

今年度もコロナ禍で大きなイベントはなかなか出来ない状況ですが、利用者さんが楽しめる行事を今後も考えていきたいと思えます。

榎の木作業所 奥村 秀美

榎の木園 「盆踊り&夏祭り」

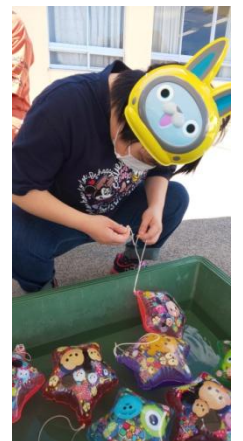
8/10 (火)



午前10時。開会宣言を皮切りに盆踊りが始まると、楽しそうに踊る方、座って音楽を楽しまれる方、踊っている様子を見て楽しまれる方、それぞれの方法で楽しまれていました。また、太鼓をいくつか用意し、順番に回して楽しんで頂きました。別の作業室ではDVD上映会が同時に行われており、盆踊りが得意ではない方も楽しみながら過ごせる様に工夫しました。

午前のプログラムでは盆踊り以外にも外で焼きそばとウインナーを職員が調理し、順番にウインナーを試食。焼きそばは昼食のお弁当と一緒に提供しました。昼休みになるとお面が配られ、皆好きなお面を付け午後の夏祭りに参加しました。

午後もし引き続き盆踊りを行いました。外にはヨーヨーすくいとベビーステラの出店を用意しました。祭りの締めくくりは外で職員による夏のライブが行われ、「アンパンマン」や「少年時代」を聴き、最後に打ち上げ花火！夏祭りの雰囲気を楽しみました。



私自身、昨年まで別の事業所に所属しており、このコロナ禍での盆踊りの参加は初めてでした。特に今回印象的だったのが、前の事業所で関わりのあったAさんです。彼女は盆踊りの曲が流れ始めると、職員が休憩の声かけをするとき以外はずっと踊っていました。踊り方がわからない人も皆が彼女を見ながら真似て踊っていました。まさにプロの踊り子です。（弟子入りを検討中・・・）

皆が皆、たくさんの方が集まる行事を楽しむことができるわけではありません。中には静かな所でゆっくり過ごすことを好まれる方もみえます。通いなれた事業所で行うことで、そういった方々も誰もいない静かな作業室などで過ごすことができ、自分のペースでヨーヨーすくいや試食などに参加することができました。通常時の榎の木盆踊り大会も良いですが、事業所単独での榎の木園盆踊り大会は皆それぞれのペースで個々に楽しむことができ、マスクを付けていても楽しそうな様子が伝わってくる最高の行事になったと思います。

榎の木園 都 香奈

かしの木サポートプラザ

「夏祭り」

8/7(土)



昨年に引き続き、今年も事業所内で小規模な夏祭りを開催する流れとなりました。

限られた場所や空間の中で、楽しんでいただけるものは何か、スタッフ同士で様々な案を出し合い、昨年開催された「盆踊り代替えレク」をベースに、新たに利用者さんにとって楽しみになると思ったアイデアを加えていきました。

レクリエーションでは夏祭りの雰囲気を楽しみたいと思い、催し物にはおかし釣りやわなげ、地元企業の協力をいただき、かき氷の提供をしていただくなど、縁日のような雰囲気を楽しめる内容にしてみました。BGMには各地域の盆踊りの曲を流すと、CDプレーヤーの前に立ち、楽しそうに踊りだす利用者さんもおられました。



私自身担当としてレクリエーションの中身を考えている中、榎の木福祉会にうちわの寄付があったことを知り、これを利用したいと思い、うちわの装飾を利用者さんに楽しんでいただくよう手作りうちわの案を出しました。入社し、初めての夏祭りレクであったので、「本当に利用者さんに喜んでいただけるだろうか」、「うちわコーナーに興味を持ってくれない利用者さんも多いのではないか」と不安になる気持ちがありました。しかし、レクが始まると、コーナー近くのテーブルは利用者さん達で埋まり、独自の装飾を楽しんでいる姿を見ることができて嬉しく感じました。

うちわコーナーで遊ぶ利用者さんも少なくなってきた頃、うちわ作りの材料を見て、通りすがりに利用者

のKさんが「俺も作りてえなあ」とボソッと話すのを聞いて、「これはチャンスだ!」と思いました。と言うのも、この方は他者とのコミュニケーションが苦手で、自分の気持ちを上手く伝えられないことも多く、関わりの難しい方でした。そのため、普段は必要最低限の言葉を交わすくらいで、しっかりとしたコミュニケーションをとったことが無かったのです。だからこそ、この一言は、Kさんとの信頼関係を深めるきっかけに繋がるのではないかと考えました。「Kさん、まだ材料はたくさんありますよ、うちわ作っていきませんか」と話しかけると、「ほんとか〜」と笑顔を見せてくれました。塗り絵を楽しまれ、それをうちわに貼って装飾し、ご自分の名前を書いて完成。うちわが出来て、嬉しそうに笑って見せてくれるKさんの姿を見て、なかなか接することができずにいた利用者さんとの距離がぐっと近づいたように感じました。



今回の夏祭りレクでの体験を通して、利用者さんにとってイベントとは楽しみの1つであると共に、周りのスタッフとの信頼も深められる大事な機会になっていると感じました。また、スタッフにとっても利用者さんの新たな一面を知り、より良い支援を思い描く好機になっていると思います。

今年度もコロナ禍が続く現状ではありますが、十分な対策をとりつつ、利用者、スタッフが共に親しみをもって参加できるイベントを大事にしていきたいと思っています。

かしの木サポートプラザ 金神 龍介

法人コーナー②

～榎の木福祉会 研修委員会活動報告～

研修委員会は、榎の木福祉会の中長期計画に基づき、働くスタッフの人材育成を図るため「研修」の企画・運営をしています。

スタッフの皆がスムーズに研修を受け、スキルアップに繋がるよう、経験年数や福祉の動向に合わせた年間の研修計画を立て、講師の依頼・場所の確保・打ち合わせなどを行っています。

コロナ禍のため、感染対策を行い、少人数での研修を定期的で開催したり、ビデオ学習、ZOOMなどのオンラインの活用も検討していき、学ぶ機会を減らさないようにしていきたいと思っております。

＜新規採用者研修＞

新規で採用されたスタッフは未経験者や新卒者など障害のことをほとんど知らずに採用されている人も居ます。そうした人達が、安心して働けるよう、毎年「新規採用者研修」を企画しており、今年度は令和3年6月15～17日の3日間 グリーンプラザで開催されました。

内容は障害福祉の専門知識だけでなく、「榎の木福祉会の職員として期待すること」「榎の木福祉会の歴史」「働くとは」「メンタルヘルス」「医療」「グループワーク」などが盛り込まれています。講師は先輩スタッフが行い、自身の体験談や支援のコツなどを織り交ぜながら分かり易く工夫して伝えております。講師の先輩スタッフにとっても、人前で分かり易く伝える経験や再度学び直す良い機会となっています。

3日間の研修は、学ぶ機会の提供というだけでなく、同期の人同士でコミュニケーションを取る機会の場ともなるので、研修後も仕事の悩みを相談し合ったり支え合える関係作りのきっかけになれば嬉しいです。



＜自閉症体験＞



＜グループワーク風景＞

＜榎の木虐待防止研修＞

令和3年7月31日尾西商工会館大ホールにて、榎の木福祉会虐待防止委員会の責任者を務める野崎貴詞を講師に「榎の木虐待防止研修」を行いました。

研修の形式は1部：講義、2部：パネルディスカッションの二部構成で企画しました。

1部では虐待防止法の経緯と説明、虐待の種類、早期発見と通報の義務、虐待の発生要因、氷山モデル、虐待と不適切なケアと適切なケアについて説明を受けました。

2部では司会進行役と、経験年数や役職の違う4名の現場スタッフが壇上に上がり、事例に対して意見を述べた後に講師からコメントがありました。

壇上の4名の意見は、他のスタッフも普段の業務で感じていることと似ており、それに対する講師のアドバイスがより分かり易くなった（共感が得られた）という感想もありました。

ただアンケートにもありましたが、忙しい日々の中で日常化してしまい気付けないという声も多々ありました。障害者虐待0（ゼロ）を目指して意識を変えていくためにも「障害者の虐待防止」「権利擁護」「意思決定支援」の研修は継続して行っていかなければならないと感じました。



＜虐待防止研修風景＞



＜パネルディスカッション風景＞

榎の木福祉会研修委員会 河合 伸治

法人コーナー③

事業所紹介 らでうす

「らでうす」は生活介護単独の事業所となっており、「それいゆ」と「こもれび」の二つの部屋に分かれて活動を行っています。

部屋分けとしては、アクティブなグループ、静かな環境を好むグループと環境に配慮して行っています。

活動内容は、午前は自立課題や内職など作業中心の活動を行い、午後からは体操や創作活動など身体機能維持や自己表現ができる活動を行っています。

自立課題に関しては、「社会に出て仕事を行うこと」を課題に取り組むことで体感していただくことや、利用者さんの特性に合わせた課題を提示することで「できた」の積み上げを行い、達成感や自己肯定感を高めることを目的として行っています。完成した課題を報告されるときには職員から「上手にできていますね！」との声に「やったー」や「上手にできる！」などと達成感が溢れる笑顔が見られています。

週に1度は二つの部屋合同で「音楽活動」を行っており、音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、カラオケをしたりとみんなで楽しみながら自己表現や協調性を向上させる活動を行っています。

普段なかなか自己を出せない利用者さんもカラオケになると「きよしのズンドコ節！」と職員にリクエストされ、皆の前で堂々と歌う姿が見られます。

土曜日の半日開所時には余暇活動として季節を感じていただけるような花見やイベントを行っています。利用者さんも土曜日に登所されると予定表を見て、開始前から職員に確認をされ、楽しみにされる様子が見られます。

8月にはすいか割りを行いました。周囲からの「もっと右!」「もっと前!」の声に耳を傾けずに目隠しを一瞬ズラし、すいかの位置を見て叩く強者も現れましたが、みんなで応援しながら楽しむことができ、全員が笑顔ですいかを食べられました。



すいか割り活動写真

らでうすでは日中の活動で創作活動を行っており、塗り絵や貼り絵、模写などを通じて利用者さんの「ひとりひとりの個性」を表現していただいています。これらの作品を「らでうす美術館」のコーナーを作って展示し、利用者さんに達成感を感じていただくことや来訪していただいた方に見ただけのようにしています。

ある利用者さんは白紙を渡し、「絵を描いて下さい」とお願いをすると必ず中心に大きな顔を描き、周囲に色々な表情の顔を描きます。中心の人物を取り巻く多数の人、この絵からは幸せや楽しさが強く伝わってきます。最近ではコンクールに作品の応募を始め、賞を



とることを目標に日々の創作活動に取り組んでいます。

らでうす美術館

今後も利用者さんの「個性」を尊重し、その方に合った活動や輝けるような取り組みをしていきたいと思っています。

らでうす 南 祥也

法人コーナー④

コロナワクチン集団接種

今、まさに新型コロナウイルス感染の、第5波がおし寄せているところです。

コロナワクチンの是非が、以前から問われていましたが、感染防止の効果は顕著で、新規感染者のほとんどが、まだワクチンを1回も打っていない人に集中しています。では、榎の木福祉会の関係者の接種状況は？と問われれば、利用者：約220名、職員：約310名、接種を希望しない人を除き、9月の末までにほぼ全員2回の接種を終えることができました。

職員の中には、個々にかかりつけ医、公的集団接種会場などで自己申請して接種できた人も多くいました。しかし、利用者はというと、通所事業所の利用者も含め、個々での申し込みや通院しての接種が困難な方が多くみえます。そこで、事業所内の集団接種が必要となっていました。



ワクチン接種風景 榎の木園にて

集団接種は、8月1日(日)に、かしの木の里で96名、かしの木の里の利用者・職員、GHC利用者、きーぷ職員等を、兵藤こどもクリニック様にお願ひしました。

一方、通所事業所は、チャイブにて7月27日(火)に、サポートプラザ利用者・職員等中心に30名。また、榎の木園を会場として、8月4日(水)に60名、8月7日(土)に54名、2回にわけて、榎の木園、榎の木作業所、ステップの利用者と職員の接種を中島整形外科クリニック様にお願ひしました。

このワクチンは、ファイザー製でしたので、それぞれ3週間後にも同じように2回目の接種を行いました。



接種後の経過観察風景 かしの木サポートプラザにて

9月に入っても未接種だった利用者・職員約40名は、両クリニックへ出向くことによって、接種していただきました。

榎の木福祉会では、接種を希望する全ての利用者・職員が接種できることを目標にしてきました。大きなトラブルもなくこの目標は、ほぼ達成できたと思います。これができたのも、兵藤こどもクリニック様、中島整形外科クリニック様のご協力の賜物です。紙面をお借りして、お礼申し上げます。

法人本部事務局長 只井 秀明

法人関連行事等 お知らせコーナー

令和3年度の行事について
新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、
下記行事は中止といたしました。

【秋】 木曾川高校演奏会

【11月】かしの木フェスティバル

【11月】ふくしのつどい

*他の行事は未定です

追加情報は法人ホームページ等でご確認ください。